

令和2年度 第1回 見附市まちづくり総合審議会 議事概要

I. 開催日時 令和2年7月17日（金）午後2時00分～午後3時00分

II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室

III. 出席委員 渡邊誠介会長、三藤良行委員、今井一博委員、山谷春喜委員、徳橋功委員、宇佐美保委員、八子円委員、五井俊一委員、藤嶋弘美委員、佐藤美千代委員、三本由美子委員、木原由美子委員、橋本卓憲委員、渡辺美絵委員（14名）

IV. 会議の概要

1. 市長あいさつ

日頃より見附市のまちづくりにご協力いただき、まことにありがとうございます。会議の開会にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

現在「新型コロナウイルス感染症」の影響により、市民生活や事業活動に大きな影響が出ています。市としましては、まずは3密の回避などの感染拡大の防止や、収入の減少などに苦しむ企業の事業継続の支援、市民の皆様への特別定額給付金の早期の支給などに取組んできました。

また、緊急事態宣言の解除後は、感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けて、様々な支援策を講じるとともに、市内での消費喚起に向けて、「使って、食べて、見附にエールを！つながるみつけプロジェクト」に、市民・産業界・行政が共同で取り組む宣言を行うなど、見附市が一体となって、新型コロナの影響をできる限り、抑えるべく取り組んでいるところです。

引き続き、市としては、新型コロナウイルスへの対応を最優先の課題として、必要な施策を講じていきたいと考えております。合わせて、市民の皆様からも、感染拡大防止や、市内事業者を支援するための市内での消費喚起について、ご理解ご協力を頂きたいと考えております。

さて、見附市第5次総合計画の前期基本計画及び第1期総合戦略の計画期間が令和2年度で終了することから、直面する課題への対応と並行して、今後5年間の見附のまちづくりの指針となる、第5次総合計画後期基本計画及び第2期総合戦略を策定することとなっております。

これまで、両計画の進捗管理を担っていただきました「見附市まちづくり総合会議」の委員の皆様から、引き続き次期計画の策定についても、審議いただきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

見附市では、「住んでいるだけで、健やかに、幸せに暮らせるまち『スマートウエルネスみつけ』」をまちづくりの目標としています。その実現のために、様々な施策に取り組み、着々と目に見える形になってきていると感じております。また、見附市の取組は、国等からも高い評価を頂いており、「市民アンケート」の結果などを見ても、市民の皆様からも一定の評価を頂いていると認識しております。

ただ、平成27年度に現計画を策定した時点から、社会経済情勢も変化しており、次期計画には、それらの要素を反映していく必要があると考えております。後ほど、詳細は事務局より説明させていただきますが、特に2つの視点を新たに加えていく必要があると考えております。

1点目は「SDGs」持続可能性の視点です。全世界的な目標として採択された持続可能な開発目標で

ある「SDGs」については、見附市は、令和1年7月1日に国から「SDGs未来都市」に選定されましたが、今後も、まちづくりの様々な分野で、この視点を取り入れていく必要があると考えております。

2点目は「ソサエティ5.0」デジタルテクノロジーの視点です。近年進歩が目覚ましい、IoTや5Gなどのデジタルテクノロジーを様々な施策に活用していくことで、人口減少が進む中においても、効率化だけではなく、より豊かな生活、人間らしい生活を実現していくことが可能になると考えております。これまで取り組んできた、「スマートウェルネス」健幸の視点に加え、これら新たな視点も加えて、今後5年間のまちづくりを考えていくことで、人口減少・高齢化が進展する中でも、これまで以上に魅力ある、持続可能なまちとしていくことが可能になるのではないかと考えております。

最後に、大変お忙しいなか、見附市のまちづくりにご協力いただき皆さまに、心から感謝を申し上げ挨拶いたします。

2. 委員の自己紹介

3. 会議の成立

【事務局】

委員の過半数が出席していることから、見附市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

4. 会長、副会長選任

【事務局】

会長については設置条例第4条第2項の規定により委員の互選により選出されることとなっている。事務局案として、まちづくりに関して専門的な見識を持つ長岡造形大学教授渡邊委員にお願いすべきと考えるがいかがか。

(異議なし)

では、会長は渡邊委員にお願いする。

また、副会長については設置条例第4条第4項の規定により会長が指名することとなっている。事前に渡邊会長と相談しており、見附商工会副会長の坂田委員にお願いする。尚、坂田委員は本日都合により欠席しているが、事前に内諾を得ている。

【渡邊会長】

都市づくり、まちづくりが専門なので、微力ながらこの審議会に協力できればと思う。皆さんの会議運営へのご協力をお願いしたい。

【事務局】

また、第5次見附市総合計画後期基本計画の策定については、見附市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、市長より本審議会に諮問され、審議の結果を最後の審議会にて答申します。

(市長から渡邊会長へ諮問書を渡す)

5. 議事

(設置要綱第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ)

(1)「見附市まちづくり総合審議会について」

【事務局】

(資料1)について説明

【渡邊会長】

総合計画というのは各市町村で似たようなものが多い中、見附市はオリジナルティーを打ち出している。市民の意見を反映させる場としての本審議会、計画ができた後のモニタリングの場としての総合会議といった位置づけの説明と、具体的な検討事項3点について事務局の解説であった。

《質問、異議なし》

(2)「第5次見附市総合計画後期基本計画」、「第2期見附市総合戦略」策定方針について

【事務局】

(資料2)について説明

【渡邊会長】

これまでの総合計画、総合戦略の柱であった「スマートウェルネスシティ（SWC）の推進」を継続していくこと、そこに「SDGs未来都市の実現」という視点、「ソサエティ5.0の実現」という視点の二つの柱を新たに加えるということが、事務局からの大きな提案である。

また、策定の考え方について「1.策定方針（5）①～⑥」が重要との説明があったが、③の人口ビジョンについては、計画の大前提としてこれまで「出生数300人」としていたところを、現実を見据える形で見直していくとしている。こういった考え方を本審議会にてどのように判断するかが重要なポイントである。

【三藤委員】

市街化区域の線引きについて今後新たに予定されている部分もあるかと思う。総合計画に関係してくる内容と考えるが、今回の資料には細かい事業は書かれていないようである。

【事務局】

基本的には、審議会は総合計画という施策全体の方向性の検討が主目的であるため、細かい事業の検討までは行わないと考えている。ただ、議論するならば次期計画案の施策体系の策定の段階と考えている。

【宇佐美委員】

ソサエティ5.0の活用には通信の増強が不可欠であるが、5Gが使える通信インフラが市内にどのくらいあるのか。また、計画策定期間内にどのくらい整備していくのか。

【事務局】

5Gの整備については、全国的な拠点や携帯ショップでの試験的な導入が進んでいると聞いているが、市単独での整備は難しいと考える。県内においても今のところ整備が進んでいない状況なので、県単位、中越地区単位などで5Gを推進してもらいたい。

【宇佐美委員】

県でも5Gの活用が進むように通信キャリアに強く働きかけをしていると聞いている。見附市と一緒にやっていければと考えている。

【渡邊会長】

遠隔医療などが実現に近づく技術だが、社会制度も同時に寄り添っていかないと実現できない。関係する方々の密なコミュニケーションと実験が必要であって、見附市が計画を作りこみ、関係者を巻き込んで動いていけるのが重要である。

【渡邊会長】

SDGsの考えを取り入れていく事についてはどう考えるか。

【木原委員】

「誰一人取り残さない社会」という難しい表題が書かれているが、17ゴール全てではなく可能なものいくつかに絞ることができるのであれば、当市の計画にも取り込んでいけるのでは。

【渡邊会長】

風呂敷を広げすぎない内容としてやってもらいたいという意見で承知した。

【渡邊会長】

人口ビジョンの見直しについては、次回、具体的な内容について議題となるが、今現在で見直しを認めないなどの意見はあるか。

【三藤委員】

見附市の世帯数は1万5,000世帯以上と伸びているが、総人口はピーク時の4万5千人弱から約4万人にまで減っている。高校を卒業した学生の進学先、就職先が少なく、転出してしまうことが要因であると考えている。見附不動産協会として行政と一緒にできることがあればと考えているが。

【事務局】

転出を減らし、転入を増やすといった社会動態の改善については、人口ビジョンの中で20代、30代などに分け目標値を設定しているが、近年は達成できていない。人口ビジョンの見直しの中で、改めて数値目標立てるとともに、社会動態の改善に向け施策を打つにあたって、どういった業界と連携していくのかなど検討していければと考えている。

【渡邊会長】

人口ビジョンの見直しについては、今後の本会議でより議論を重ねていくということで良いかと思う。次に新型コロナウイルス対策について、知見のある方の意見を伺いたい。

【山谷委員】

会議のあり方として、直接会議を開かずに、ZOOMなどを活用したオンライン会議での開催も一つの方法ではないか。

また、ソサエティ5.0について、高齢者が増えていく中で、はたして技術を使いこなせるかが疑問である。

【事務局】

行政の会議もZOOMの活用が増えている。本会議についても検討したい。

新技術の利用については、基本的にはサービスを提供する側がそういった技術を活用することで省力化を図るといった考え方である。直接高齢者が使うことも考えられるが、例えば介護の分野などで提供されるサービスが新技術の活用により省力され、その結果高齢者の生活の質の向上に繋がっていけばと考える。

【渡邊会長】

今の問題提起は、まさに「誰一人残さない」というSDGsの考え方である。高齢者もソサエティ5.0を目指す中でより心身ともに健康になっていくであろう。

策定方針については原案の通りでよろしいか。

≪異議なし≫

(3) その他

【事務局】

次回開催は、9月28日（月）午後2時から。現計画の評価・検証、人口ビジョンについて審議予定。

以上